

(別紙様式)

平成25年度魅力ある学校づくり調査研究事業ブロック協議会資料

都道府県・政令指定都市教育委員会名〔大阪府教育委員会〕

1 拠点校及び連携校

区分	学校名	学級数	児童生徒数
拠点校(中学校)	寝屋川市立第五中学校	20(5)	579
連携校(拠点校中学校区内の小学校)	寝屋川市立神田小学校	23(5)	555
	寝屋川市立和光小学校	26(6)	683

2 意識調査(アンケート共通項目)(%)

学校種	学年等	実施時期	児童生徒数(人)	ア 学校が楽しい				イ みんなで何かをするのは楽しい				ウ 授業に主体的に取り組んでいる				エ 授業がよくわかる			
				1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4
中学校	全学年計	前年①	582	52.2	34.9	8.8	4.1	57.1	31.2	7.2	4.4	24.5	44.3	23.9	7.3	21.6	44.0	23.8	10.6
		前年②	582	60.5	29.9	6.6	3.0	62.1	27.7	7.3	2.9	23.6	43.0	26.3	7.2	16.7	45.2	25.6	12.5
		本年①	581	51.4	32.7	8.9	7.1	50.8	33.4	10.2	5.6	24.2	48.9	18.5	8.4	27.1	43.2	21.2	8.4
	3	中2①	195	53.8	30.6	10.8	4.8	54.8	33.0	6.9	5.3	17.9	39.1	30.4	12.5	19.4	43.0	25.3	12.4
		中2②	195	60.2	28.0	8.6	3.2	55.4	31.2	10.2	3.2	20.1	38.6	32.6	8.7	17.7	44.2	26.5	11.6
		中3①	199	51.9	29.1	9.5	9.5	53.4	30.7	10.6	5.3	21.9	48.7	17.6	11.3	21.3	41.0	27.1	10.6
	2	中1①	207	51.7	38.9	7.2	2.2	55.6	30.6	9.4	4.4	24.3	51.4	19.2	5.1	33.1	42.7	18.5	5.6
		中1②	207	60.3	34.6	3.4	1.7	62.6	30.2	3.9	3.4	23.0	47.8	25.3	3.9	21.0	46.6	22.2	10.2
		中2①	181	51.7	32.0	11.0	5.2	54.7	33.1	7.6	5.2	29.7	45.9	16.9	7.6	28.1	39.8	24.6	7.6
	1	小6①	195	48.2	38.5	10.3	3.1	60.5	29.2	7.7	2.6	19.1	50.5	22.7	7.7	43.3	41.2	11.3	4.1
		小6②	195	53.9	36.4	6.3	3.4	55.8	36.9	3.4	3.9	24.8	48.1	19.4	7.8	39.8	42.7	14.1	3.4
		中1①	201	50.5	37.0	6.3	6.3	44.7	36.3	12.6	6.3	21.5	51.8	21.9	5.8	32.18	48.7	12.3	7.0
小学校	高学年計	前年①	395	48.4	40.3	7.8	3.5	61.0	29.9	6.3	2.8	20.6	47.7	23.6	8.1	42.9	40.1	10.7	6.3
		前年②	395	49.1	36.2	9.2	5.5	57.3	34.0	5.0	3.7	25.6	46.4	21.1	6.9	37.5	43.7	13.2	5.7
		本年①	409	33.2	38.9	18.6	9.3	51.4	34.4	10.8	3.3	29.0	42.7	23.4	4.9	36.5	44.6	15.0	3.9
	6	小5①	200	48.5	42.0	5.5	4.0	61.5	30.5	5.0	3.0	22.0	45.0	24.5	8.5	42.5	39.0	10.0	8.5
		小5②	200	44.2	36.0	12.2	7.6	58.9	31.0	6.6	3.6	26.4	44.7	22.8	6.1	35.0	44.7	12.2	8.1
		小6①	205	38.6	35.6	15.5	10.3	54.9	29.7	11.3	4.1	31.8	35.4	25.6	7.2	38.3	42.0	14.5	5.2
	5	小5①	204	27.8	42.3	21.6	8.2	47.9	39.2	10.3	2.6	26.3	50.0	21.1	2.6	34.7	47.2	15.5	2.6

学校種	学年等	児童生徒数(人)	オ 叩かれたり、けられたり、強く押されたりした				カ 暴力ではないが、いじわるをされたり、イヤな思いをさせられた				キ 叩いたり、けったり、強く押ししたりした				ク 暴力ではないが、いじわるをしたり、イヤな思いをさせた			
			1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4
中学校	全学年計	581	77.3	12.9	4.8	5.0	66.5	21.1	6.3	6.1	74.5	15.7	6.3	3.5	69.6	21.2	5.7	3.5
	3年	199	77.3	11.9	3.2	7.6	58.5	24.5	9.3	7.7	71.2	16.3	6.0	6.5	65.2	20.7	7.1	7.0
	2年	181	73.1	17.0	5.3	4.6	65.5	24.0	5.3	5.2	69.8	20.7	6.5	3.0	59.6	32.2	5.8	2.4

	1年	201	81.3	10.2	5.9	2.6	75.3	15.1	4.3	5.3	82.0	10.6	6.3	1.1	83.0	11.7	4.3	1.0
小学校	高学年計	409	13.6	13.6	12.5	60.3	23.9	17.7	12.4	46.0	6.6	19.1	13.6	60.7	6.7	15.4	20.7	57.3
	6年	205	15.0	11.1	9.4	64.4	21.5	13.4	12.4	52.7	7.7	18.7	15.4	58.2	8.3	13.3	18.9	59.4
	5年	204	12.2	16.1	15.6	56.1	26.3	22.0	12.4	39.2	5.6	19.6	11.7	63.1	5.1	17.4	22.5	55.1

### 3 課題・目標・取組

課題	児童生徒が自主的、主体的に取り組む活動を充実させる必要がある。 授業改善による学習意欲の向上や自尊感情の醸成が必要である。
目標	委員会活動により体育的行事や地域貢献活動の企画運営に取り組む。 学習形態を工夫し、すべての児童生徒が活躍できる授業をつくる。
取組	①すべての児童生徒が主体的に参加する行事の創造、②5-GOサミットを活用した地域貢献活動の推進、③共通ツールを取り入れた授業づくり。

### 4 意識調査結果の分析

#### (1) 好ましいと思われる事項

小・中 共通	・イ「みんなで何かをするのは楽しい」は、どの学年でも「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」を合わせた肯定的意見が8割を超えている。対外行事や体育大会、異年齢交流等、子どもたちに活躍の場を設定する取組みの工夫が結果に結びついたと考えられる。
中学校	・ウ「授業に主体的に取り組んでいる」エ「授業がよくわかる」は、中2・中3で「当てはまる」と答えた割合が前回調査より増加した。特に中2が顕著である。授業改善に力点をおき、ペア学習やグループ学習等の工夫や共通ツール(ホワイトボード)を意識して活用したことが要因ととらえている。「学校が楽しい」の「当てはまる」の割合は、中2、中3において府独自調査結果の平均より上回っている
小学校	・ウ「授業に主体的に取り組んでいる」エ「授業がよくわかる」は、6年で「あてはまる」と答えた割合が前回調査より増加した。昨年度の課題を受け、授業に力点を入れた結果と考える。とりわけ、ウ「授業に主体的に取り組んでいる」は前年度の6年生1回目と比べても顕著に好ましい結果となっている。中学校同様、ペア学習やグループ学習等の工夫や共通ツール(ホワイトボード)の有効活用が要因として考えられる。

#### (2) 好ましくないと思われる事項

小・中 共通	・ア「学校が楽しい」イ「みんなで何かをするのは楽しい」は、どの学年も肯定的意見が多い一方、「当てはまらない」と答えた者の数も多くはないが前回調査と比べ増加した。みんなと一緒に取り組めずついていけない児童生徒の存在がうかがえる。どういう児童生徒に焦点が当たっていないかを検証する必要がある。また、ウ「授業に主体的に取り組んでいる」やエ「授業がよくわかる」については、「当てはまらない」と答えた者の増減は学年によってまちまちである。昨年度の反省から授業への取組を強化し、その成果はあるものの、一方でア「学校が楽しい」イ「みんなで何かをするのは楽しい」の否定的数値が上がったことの考察が必要である。 ・カ「暴力ではないが、いじわるをされたり、イヤな思いをさせられた」の割合が、中学校全学年で約6～7割、小学校で2割以上あり、上記の「当てはまらない」と答えている要因の一つと考えられる。
-----------	--

中学校	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中学校で授業改善（（１）「好ましいと思われる事項」の中中学校欄参照）が見られるものの、ウ「授業に主体的に取り組んでいる」は中２、中３で「当てはまらない」と回答している者の数多くはないが前回調査と比べ増加した。特に、中３では昨年度の同学年の１回目調査との比較でも上回っている。主体的に取り組めない生徒を意識した支援が必要である。成果を上げている取組みととらえているペア学習やグループ学習や共通ツール（ホワイトボード）等の活用についても、固定化せずすべての生徒の満足度を上げるためにより一層工夫する必要がある。</li> <li>・オ「叩かれたり、けられたり、強く押されたりした」は、中２・中３で７割以上、中１では８割を超える高い数値となっている。</li> </ul>
小学校	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校で授業改善（（１）「好ましいと思われる事項」の小中学校欄参照）が見られるものの、ア「学校が楽しい」イ「みんなで何かをするのは楽しい」の項目については、小６で前回調査と比べ好ましくない結果となった。学力と絆づくりにバランスよく取り組んできたつもりだが、今後どういう視点で取り組めばよいか協議する必要がある。（連携校Ａでは「自分が好き」「自分によいところがある」といった自尊感情が連携校Ｂよりも低い傾向を示しており、その違いを視点とすることも有効）</li> </ul>

## 5 取組事項

小・中 共通	<p>①すべての児童生徒が主体的に参加できる行事の創造</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各学校の体育的行事を活用し、学級、学年、学校をつなぐ委員会活動を強化する。</li> </ul> <p>②5－GＯサミットを活用した地域貢献活動の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域住民と中学校の生徒会執行部、2小学校5～6年の全学級から代表2～3名が年間6回の会議を行い、自分たちの住む町をよりよくすることをテーマに学級で話し合い、サミット場で具体的取組を協議する。</li> </ul> <p>③共通ツールを取り入れた授業づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学び合いの授業の研修、3校合同公開授業、校内研究授業、先進校視察等、授業改善や授業規律の確立に向けた共通理解を深める。3校合同公開授業や校内研究授業では、ペア学習やグループ学習を中心に交流する。</li> </ul>
中学校	<p>①すべての児童生徒が主体的に参加できる行事の創造</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・体育委員と保健委員を分化し専門性を高め、毎月の協議を重ねながら、学年単位の体育的行事や昼休みのグラウンドの活用に関する企画運営に取り組む。</li> <li>・体育大会において各種委員会の組織をいかし、自主的な運営の強化に取り組む。</li> </ul> <p>②5－GＯサミットを活用した地域貢献活動の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・月1回の代議員会と学級会を通じ、各学級での議論やニーズの把握、地域からの提案に対する具体策の検討等「5－GＯサミット」における協議の発展を図る。</li> </ul> <p>③共通ツールを取り入れた授業改善</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年度、英語科や体育科で実施したペア学習やグループ学習の取組を全教科に広めるため、ホワイトボードを活用した授業実践及び授業交流に取り組む。</li> <li>・ペア学習やグループ学習に取り組むためのガイダンスとして、学級開きの折に全年齢対象にハートプログラムを実施する。</li> <li>・学びあいの中で他者との関わりにより生徒自身が「気付く」「わかる」「訊ける」「教えることができる」授業づくりに取り組む。</li> </ul>
小学校	<p>①すべての児童生徒が主体的に参加できる行事の創造</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ソーラン、ドッジボール、縄跳び、駅伝等の行事や宿泊行事等に実行委員会を活用し、一人一役で主体的な活動に取り組む。</li> <li>・異学年交流（ペアクラス、ペア学年等での休み時間の交流遊びや朝の児童集会にお</li> </ul>

	<p>ける各学年の取組紹介等)を積極的に行い、児童が安心して学校生活を過ごせるとともに、活動の企画や実行などに一人ひとりが主体的に関わることで自己有用感や自己存在感を高める。</p> <p>②5-GOサミットを活用した地域貢献活動の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「5-GOサミット」の協議と学級活動を直接つなげるため、新たに高学年の各学級において5-GOサミット委員を選出し、月1～2回の協議を行う。</li> </ul> <p>③共通ツールを取り入れた授業づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童一人ひとりの活動の場を設定する。ペア学習やグループ学習等学びあいの中で他者との関わりを重視した授業づくりを推進する。</li> </ul>
--	--

## 6 取組内容

### (1) 事業実施計画書に記載した月別実施内容

月	小学校で行う主な内容	状況	中学校で行う主な内容	状況
4月	校内研修会(全小) 5-GOサミット委員会 市教委訪問	○ ○ ○	第1回小中連絡協議会(小・中) 第1回調査研究委員会(小・中) 三校合同教員研修(小・中) 三校合同部会(小・中) ハートプログラム(全学年) 市教委訪問	○ ○ ○ ○ ○ ○
5月	第1回意識調査(全小) 小学生熟議(全小) 5-GOサミット委員会 校内授業研究会 市教委訪問	○ ○ ○ ○ ○	第2回小中連絡協議会(小・中) 三校合同教員研修(小・中) 生徒会会議 第1回意識調査 国による学校訪問(小・中) 市教委訪問	○ ○ ○ ○ ○ ○
6月	文化集会(神田小) 運動会(神田小) 5-GOサミット委員会 校内授業研究会 市教委訪問	○ ○ ○ ○ ○	第3回小中連絡協議会(小・中) 第2回調査研究委員会(小・中) 5-GOサミット①(小・中) 先進校視察 市教委訪問	○ ○ ○ ○ △
7月	5-GOサミット委員会 市教委訪問	○ ○	5-GOサミット②(小・中) 校内授業研究会 市教委訪問	○ ○ ○
8月	水泳大会 市教委訪問	○ ◇	三校合同教員研修(小・中) 地域貢献活動(小・中) 市教委訪問	○ ○ ○
9月	水泳記録会(2校合同) 運動会(和光小) ・5、6年生による自主的な係活動 5-GOサミット委員会 ソーランの取組(和光小) ・運動会や民舞大会への出場に向けての主体的な取組 市教委訪問		第4回小中連絡協議会(小・中) ・リーフレットの作成による寝屋川市全小中学校への周知 三校合同教員研修(小・中) ・ペア学習・グループ学習等による学び合いの学習のあり方について 5-GOサミット③(小・中) 子ども議会(小・中・地域) ・子ども発の地域協働の取組発表 生徒会会議 ・5-GOサミット、子ども議会の発表のまとめ、各校への報告について協議 市教委訪問	

10月	小学生熟議（全小） ・地域交流行事の検討 地域交流（全小） ・地域協働による清掃活動、挨拶運動の実施 5-GOサミット委員会 ・清掃活動のふりかえり 校内授業研究会 ・言語活動を活かした授業づくり 市教委訪問	第5回小中連絡協議会（小・中） ・ブロック別協議会への準備 体育大会 ・生徒主体による体育大会の実施 生徒会会議 ・5-GOサミットの取組について ・文化祭の取組検討 5-GOサミット④（小・中） ・すこやかフェスタの取組検討 市教委訪問
11月	小学生熟議（全小） ・5-GOサミットにむけて 兄弟学級遊び・交歓給食（神田小） ・異学年交流 文化集会（全小） ・異学年交流 5-GOサミット委員会 ・すこやかフェスタ 校内授業研究会 ・言語活動を活かした授業づくり 市教委訪問	文化祭 ・生徒の自発的な活動の場 生徒会会議 ・新体制づくり(引き継ぎ) ブロック別協議会 市教委訪問
12月	ニコニコフェスティバル（和光小） ・異学年交流 交歓給食（和光小） ・異学年交流 文化集会（神田小） ・異学年交流 第2回意識調査 5-GOサミット委員会 ・すこやかフェスタの振り返り 市教委訪問	第6回小中連絡協議会（小・中） ・意識調査の集計、考察 第3回調査研究委員会（小・中） ・ブロック別協議会のふりかえり 5-GOサミット⑤（小・中） ・5-GOサミットの取組を地域へ紹介する 五中校区すこやかフェスタ ・児童、生徒、地域による協働 第2回意識調査 市教委訪問
1月	校内研修会（全小） ・言語活動を活かした授業づくり 文化集会（神田小） ・異学年交流 5-GOサミット委員会 ・5-GOサミット紹介の作成 市教委訪問	第7回小中連絡協議会（小・中） ・第2回意識調査集計、考察 第4回調査研究委員会（小・中） ・連絡協議会に向けて 三校合同教員研修（小・中） ・次年度の小中一貫した学び合いの授業についての検討 5-GOサミット⑥（小・中） ・5-GOサミット紹介の作成 市教委訪問
2月	小学生熟議（全小） ・5-GOサミットにむけて ハートプログラム【2校合同】 ・中1ギャップ解消に向けた取組 5-GOサミット委員会 ・取組の振り返り 校内授業研究会 ・言語活動を活かした授業づくり 市教委訪問	第8回小中連絡協議会（小・中） ・連絡協議会に向けて 5-GOサミット⑦（小・中） ・取組の振り返り 市教委訪問
3月	5-GOサミット委員会	第9回小中連絡協議会（小・中）

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度のまとめ</li> <li>市教委訪問</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実績報告書の作成</li> <li>第5回調査研究委員会（小・中）</li> <li>・年間のまとめ</li> <li>5-GOサミット⑧（小・中）</li> <li>・今年度のまとめ</li> <li>市教委訪問</li> </ul>
--	---	--

**（２）８月末までに実施した具体的な取組**

**〔小・中共通〕**

② 5-GOサミットを活用した地域貢献活動の推進

- ・学級から学校全体へ、サミット・児童生徒会活動から地域へ  
両小学校ともサミット実行委員を校内の委員会活動に位置づけ、サミット参加児童と学級活動をつなぐ活動時間の確保や取組みを発信し協議しやすい体制を整えた。サミットでは、9月の子ども議会に向けて、学級での話し合いをもとに地域と協働した具体的な取組みについて話し合っている。

中学校の学級での話し合いを通じて、中学生が小学校に出向いて校門前であいさつを交わし合い、あいさつをすることの心地よさや大切さを、校種を超えて互いに実感できる場を設定した。その様子を見た地域の方々の意見もあり、その経験を地域に広げるためにサミットを活用し、9月の子ども議会から地域ぐるみの取組につなげることで、地域の人とあいさつを交わすことが当たり前であるという文化の定着を目指す。



③ 共通ツールを取り入れた授業づくり

- ・3校合同公開授業（教職員の授業力の向上）

共通ツールを取り入れた授業づくりに向け、ペア学習や少人数グループにおけるホワイトボード活用の工夫に焦点を当て、5月に中学校で両小教員の参加のもと、全学級公開授業と研究協議を行った。その結果を受け、8月には「子どもの主体的な学び合い活動」をテーマに各校独自の学習のあり方と共通ツールの活用について協議した。これらの成果をもとに9月に神田小、1月に和光小で公開授業及び協議を実施する。



- ・三校合同部会の実施（小中一貫した指導体制の構築）

校区の育てたい子ども像をもとに、三校合同部会（学力向上部・生徒指導部・体力向上部・支援教育部・道徳部・外国語活動部）において、学級担任制や教科担任制による指導の違いや集団指導と個別指導のあり方を年3回協議する。その内容は、小中一貫教育アクションプランに反映し、広く情報発信している。今年度は、「魅力ある学校づくり」の成果や課題を各部でどう反映するかが大きなテーマとなる。



**〔中学校〕**

③ 共通ツールを取り入れた授業づくり

- ・学級開きのプログラムとして、ハートプログラムを全学年4月当初に行った。新しい学級での居場所づくりや学び合いの楽しさ、友だちの良さを知る機会になった。その実感は、学び合いの授業を目標とした、少人数グループワークやホワイトボードを活用した言語活動を通した生徒の主体的な活動につながっている。

**〔小学校〕**

① すべての児童生徒が主体的に参加できる行事の創造

- ・運動会（神田小）

初めての1学期実施のため、高学年が係活動に主体的に取り組めるよう時間的余裕も確保し、運動会の成功に向け様々な活躍の場を設





定した。当日の進行だけでなく、係活動を通じて演技にも工夫を凝らした。高学年の精一杯の演・競技に大人や下級生から盛んな拍手が寄せられ、多くの児童が満足感を感じた。そんな高学年の姿が、低学年の憧れや目標になっており、今後の異年齢交流の充実につながると考える。

③共通ツールを取り入れた授業づくり

・校内研究授業（和光小）

児童同士がつながり、学び合うことでお互いが認め合える集団づくりのため、「共に学び合う授業」をテーマに多様な授業形態の在り方について、教科を限定せず、全学年対象に研究授業を行っている。また実技研も含めたミニ研修を行い、ホワイトボードの活用等校区合同教員研修や先進校視察とも関連させ、授業力を高める取組を進めている。



7 8月末までの取組状況と課題（第1回意識調査結果を踏まえた内容を含む）

（1）順調に進んでいる事項

小・中 共通	②5-GOサミットを活用した地域貢献活動の推進 ・小学校における学級と学校をつなぐ話し合い活動（熟議）の体制の充実 ③共通ツールを取り入れた授業づくり ・ペア学習やグループ学習を中心とした教員の授業力向上
中学校	③共通ツールを取り入れた授業づくり ・ホワイトボードの活用による学び合いの環境整備
小学校	①すべての児童生徒が主体的に参加できる行事の創造 ・運動会の成功による係活動への児童のモチベーション向上 ③共通ツールを取り入れた授業づくり ・ペア学習やグループ学習等学びあいによる児童の主体的活動の推進

（2）課題となっている事項

小・中 共通	②5-GOサミットを活用した地域貢献活動の推進 ・地域交流行事の企画・運営等で結論ありきではない主体的取組や、丁寧な事後学習について十分に検討されていない。 ③共通ツールを取り入れた授業づくり ・授業に主体的に取り組んでいる実感の乏しい児童生徒への対策が必要である。
中学校	①すべての児童生徒が主体的に参加できる行事の創造 ・「みんなで何かをするのは楽しい」の「あてはまる」との回答の減少を踏まえ、今後の行事で生徒が主体性を実感しそれを周囲から認められる取組が必要である。
小学校	①すべての児童生徒が主体的に参加できる行事の創造 ・異年齢交流が形式的になりがち、状況に応じた仕掛けや取組の評価が十分ではない。

8 9月以降の重点推進事項

小・中 共通	②5-GOサミットを活用した地域貢献活動の推進 ・子ども議会において自分たちの意見を表明し、すこやかフェスタにおいて地域のために活躍し、地域交流行事において地域の一員として活動する。それぞれの行事のねらいを明確にしながら、その枠組みの中で児童生徒が何ができるのかをしっかりと考える場を設定し、地域にも理解と協力を得る。他者評価についても工夫する。 ③共通ツールを取り入れた授業づくり ・小学校で効果をあげているペア学習やグループ学習の工夫を中学校が学び、中学校で効果をあげている授業におけるホワイトボードの活用を、以前より小学校独自で取り組んでいた活用方法とつなぐことで、小・中一貫した学習スタイルとして確立さ
-----------	--

	せ中学校の学びへとつなげる。授業後に振り返り（自己評価）ができる場を工夫し、児童生徒の状況を丁寧に把握する。
中学校	①すべての児童生徒が主体的に参加できる行事の創造 ・体育大会・文化祭等で事前事後学習を含め全生徒に焦点の当たる取組を目指す。
小学校	①すべての児童生徒が主体的に参加できる行事の創造 ・異年齢交流を含めた行事の目的を明確にし、つながることの楽しさや自信をもたせられるよう工夫し、意識調査で課題が明らかになっている「学校が楽しい」「みんなで何かをするのは楽しい」の改善につなげる。

## 9 教育委員会の取組

### (1) 寝屋川市教育委員会

#### 〔重点推進事項〕

- ・拠点校及び連携校の本事業における主体性の向上
- ・「子どもにつけたい力」や「子どもの変容」等を含めた9年間の行事等の実践計画を整理し、今後の取組の在り方や有機的な小小、小中連携及び異学年交流の在り方等の検証
- ・本年度の事業の取組と成果の全市的な啓発活動
- ・次年度以降の継続可能な取組に向けての課題整理

#### 〔成果と課題〕

- 第五中学校区における小中9年間を見通した実践計画を整理するにあたって、大阪府教育委員会が主催する「絆づくりワーキング・グループ会議」に参加し、各市と分析・情報共有をすることで大阪府の他市との比較による五中校区の取組の効果検証を行い、五中校区内における魅力ある学校づくり調査研究委員会等を通して本事業の取組の点検・評価や組織体制づくりにつなげている。また、本市児童生徒加配教員の「魅力ある学校づくり運営協議会」への参加や、市内の生徒指導連絡会等を通して五中校区の取組を紹介する等、本事業の啓発を行っている。
- 本事業を各校へ広めるために、府教育委員会の「絆づくりワーキング・グループ会議」と連動し、本市における「魅力ある学校づくり」を活用した生徒指導体制づくりが必要である。

### (2) 大阪府教育委員会

#### 〔重点推進事項〕

- ・自尊感情、自己有用感を高めるための小小や小中連携、異年齢交流を中心とした集団指導の在り方について、該当市町村教委と連携のもと社会性測定用尺度を活用し検討を進める
- ・児童生徒加配教員を活用し「魅力ある学校づくり調査研究」を実施し、該当市町村教委と連携した府域での取組の推進
- ・本調査研究の取組及び国主催の連絡協議会で得られた情報や成果と課題を府内市町村教育委員会と共有化の推進

#### 〔成果と課題〕

- 今年度、30市54中学校98学級約15,500人対象に「社会性測定用尺度」調査を年3回実施。寝屋川市を含む10市教育委員会と「絆づくりワーキング・グループ会議」を隔月で年6回実施し、調査研究の内容や国研総括研究官の指摘について共有し、大阪版「魅力ある学校づくり」調査研究を進めている。ワーキング会議では、上記30市調査について、昨年度収集データ（9市26中学校の約7,900人）や国研データと比較し、生徒指導の在り方について協議を重ねている。協議の内容は、30市の指導主事や児童生徒加配教員代表計60名からなる「魅力ある学校づくり運営協議会」で共有、各市の取組へとつなげている。
- 「社会性測定用尺度」調査の数値の増減と学校の取組の成果や課題の関連性についてどう読み解くかについての助言のむずかしさ。

#### 【問い合わせ先】

所属	大阪府教育委員会小中学校課			電話	06-6944-3823	
職名	指導主事	氏名	森田 好一	よみがな	もりた よしかず	